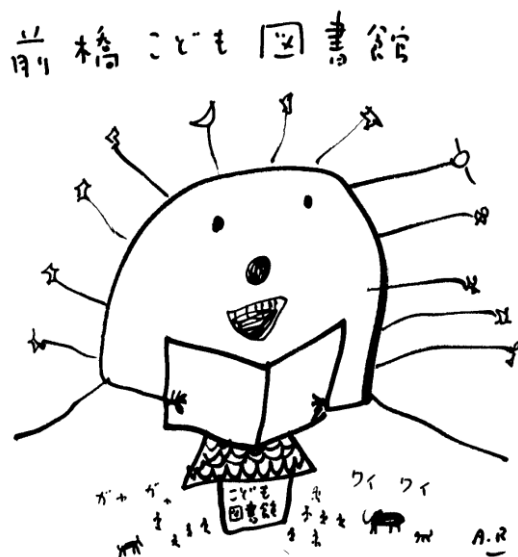


前橋市子ども読書活動推進計画(第三次延長計画)

つなげよう 読書のわ

みんなにとどけ 本のちから



前橋市教育委員会

表紙のイラストは、絵本作家の荒井良二氏と市内在住の子どもたちが、こども図書館の壁に壁画を描くワークショップを開催した際、荒井良二氏がこども図書館をイメージしたイラストを色紙に描いてくださったものです。

目 次

第1章 はじめに	1
1 計画期間延長の趣旨	
第2章 子ども読書活動推進における取組状況	3
1 第二次計画期間中の取組と成果	
2 子ども読書の現状	
3 第三次計画実施期間中の状況変化	
(1) 前橋市の取組	
(2) 国・県の動向	
4 今後の課題	
5 経年変化で見る子ども読書の現状（次期計画の策定に向けて）	
第3章 第三次計画の基本方針	11
1 理念	
2 目的	
3 目標	
4 方針	
5 計画の期間	
6 計画の対象	
第4章 子ども読書活動推進のための方策	13
1 家庭・地域における子ども読書活動の推進	
(1) 家庭	
(2) 地域	
2 学校等における子ども読書活動の推進	
(1) 幼稚園・保育所（園）・認定こども園	
(2) 小学校・中学校	
(3) 高等学校	
(4) 特別支援学校	
3 図書館における子ども読書活動の推進	
4 関係機関との連携による子ども読書活動の推進	
資料編	26

第1章 はじめに

計 画 期 間 延 長 の 趣 旨

本市では、平成31年3月に「前橋市子ども読書活動推進計画（第三次）」を策定し、前橋こども図書館を中心に市の関係各課、学校、地域、家庭及び読み聞かせグループなどが連携して子どもたちの読書活動を推進してきました。

計画期間4年目にあたる令和4年度に、前橋市立図書館本館の中心市街地への移転と前橋こども図書館の統合が方針決定されました。

新本館の建設に伴い、建設予定地に近接している群馬県立図書館との機能連携が予定されているため、群馬県読書活動推進計画と計画期間をそろえることとしました。

また、新本館が目指すサービス拡充策の一つである「子どもの自主性を育む」の趣旨を取り入れた次期計画（第四次）とするため、令和5年度下半期に予定している新本館基本計画の策定を待って第四次計画の策定に着手することとしました。

以上2点の理由により、現行計画の計画期間を一年間延長し、令和6年度までとするものです。

なお、計画期間の延長にあたり、3年余に及ぶコロナ禍を経ての状況変化を踏まえて「第4章子ども読書活動推進のための方策」について時点修正を行いました。

時点修正の主な内容

- ・第三次計画策定後に廃止された事業を削除
- ・コロナ禍で取組方法が変化した事業について現行の取組内容に修正
- ・組織改組に伴う担当部署の名称変更

つなげよう 読書のわ

みんなにとどけ 本のちから

家庭・地域

子どもにとって最も身近な存在である保護者への啓発を行い、地域で活動するボランティア等と協力し、地域の全ての子どもや親子を対象として読書推進の意識を高めるよう取り組みます。



学校・幼稚園等

幼児・児童生徒が自ら本に親しむ習慣を身に付けられるよう、学校・幼稚園・保育所等において読み聞かせなどの取組を、すべての子どもたちに広がるよう充実させます。



連携 協力

図書館

本とふれあう機会の少ない子どもたちにも本を届けられるよう、関係機関と連携し、多彩なイベントやサービスを提供します。



関係機関

社会全体で子どもの読書活動の推進に取り組めるよう、関係機関が協働してそれぞれの良さを活かした読書活動の推進を図ります。



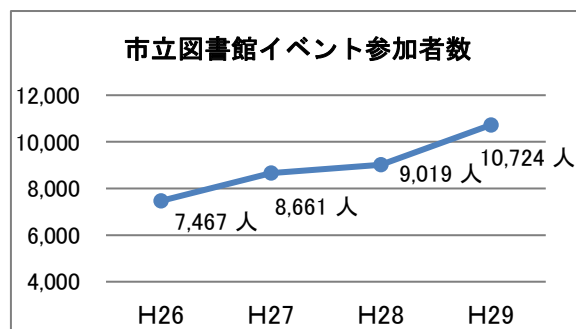
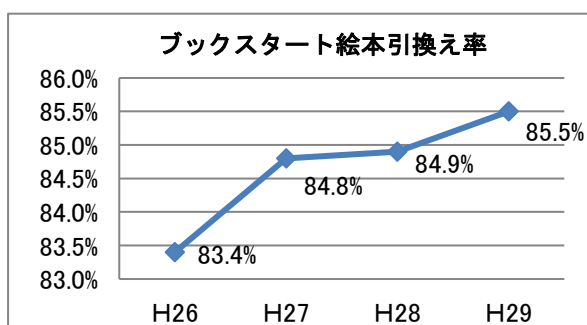
第2章 子ども読書活動推進における取組状況

1 第二次計画期間中の取組と成果

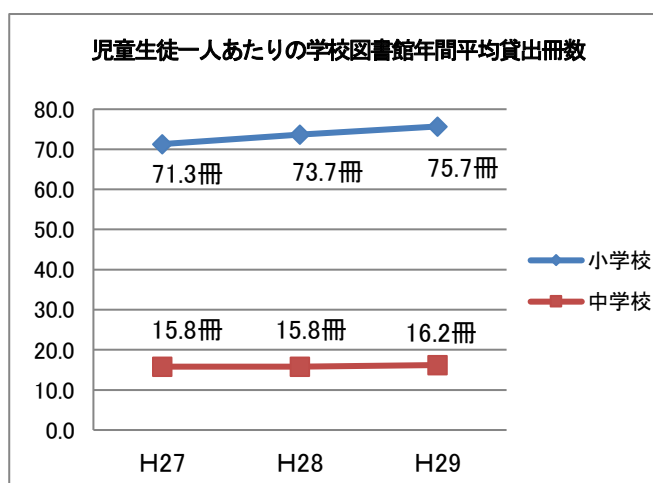
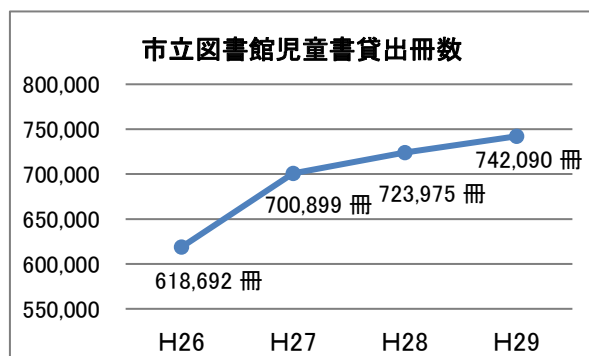
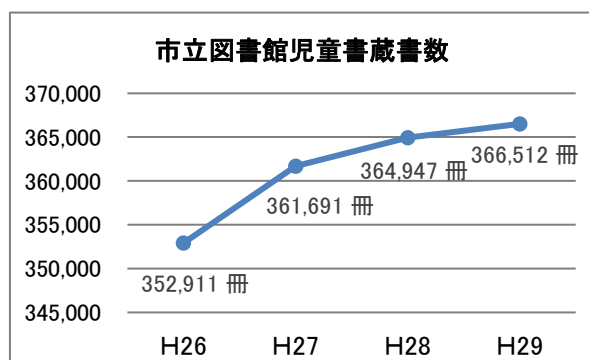
平成26年度から平成30年度までの5年間、「伝えよう 本のすばらしさを」をテーマに本市をはじめ関係団体・機関等で第二次計画に取り組んでまいりましたが、その主な取組状況や成果と現状及び課題点は次のような状況でした。

取組の1 子どもが本と出会うために

- ◆ 乳児に対しては、絵本を通して親と子がふれあい、絵本に親しむきっかけとなるよう、赤ちゃんに絵本を1冊プレゼントするブックスタート事業を実施しました。母子手帳交付時などに事業を紹介し、保健推進員やボランティアの協力により絵本の引換え率は、前年度を上回りました。
- ◆ 健康教室において絵本の読み聞かせや紙芝居などを実施しました。また、図書館や公民館等の各施設において、前橋市読み聞かせグループ連絡協議会等と協力し、おはなし会などのイベントを開催し、読み聞かせの大切さ等について普及啓発に努めました。
- ◆ 幼稚園・保育所（園）及び認定こども園において、保育の中で読み聞かせを実施するほか、誕生会や集会行事などで大型絵本、パネルシアター、人形劇なども取り入れ、絵本やおはなしへの興味や関心を高めました。
- ◆ 市内の幼稚園・保育所（園）及び認定こども園が、こども図書館の実施している絵本セット団体貸出を利用し、子どもが施設にはない絵本と出会い、絵本やおはなしへの興味関心を広げるきっかけとしました。また、幼稚園・保育所等では、各部屋に子どもが自由に絵本を手にとれるようなスペースを設け、絵本に親しめる環境づくりを推進しました。
- ◆ 幼稚園等では、保護者向けの読み聞かせ講演会を実施し、保護者に読み聞かせの大切さを伝え、興味をもってもらえるよう努めました。さらに、地域の方や保護者から読み聞かせボランティアを募集し、読み聞かせを実施しました。
- ◆ 公民館や図書館において、親子のふれあいや絵本を楽しむ体験を目的に読み聞かせ講座を開催するとともに読み聞かせボランティア養成講座等を開催し、ボランティアの育成や支援を進めました。



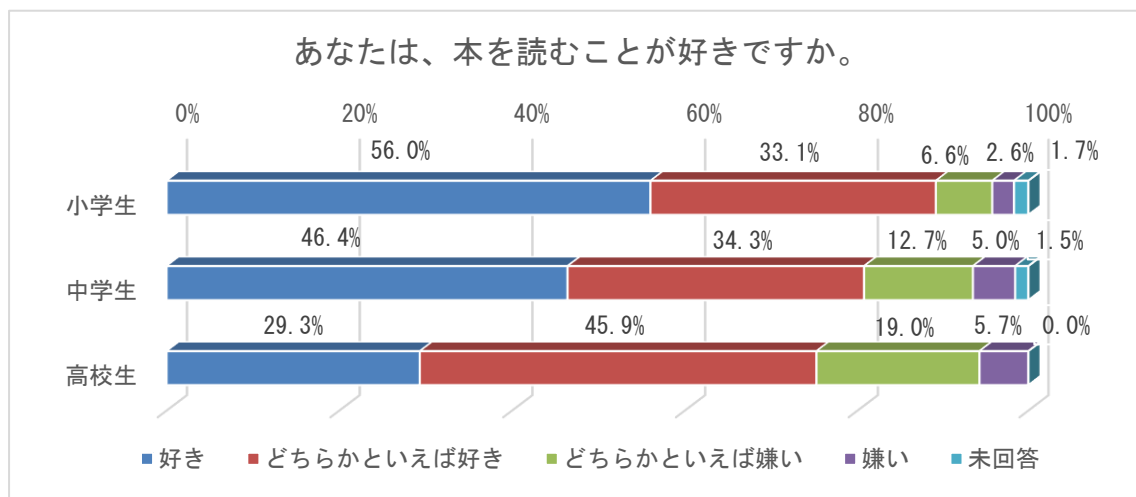
- ◆ 園だよりやクラスだより、図書委員会からのおたよりなどを通し、子どもたちに人気のある絵本や年齢ごと季節ごとにおすすめの本を紹介し、保護者も子どもの興味関心をもった本にふれる機会を持てるようにしました。
- ◆ 小学校1年生、中学校1年生へのブックリストの配布や、おすすめ図書などを市のホームページや図書館だよりに掲載するとともに、新刊本や話題の本などの展示を図書館や各施設の図書室等で行い、読書に対する興味・関心を高めるよう努めました。
- ◆ 図書館や児童文化センターでは、中高生の職場体験の受入れや、図書館キッズ、サマーフレンズ事業等を実施し、本や図書館に親しめ、本を通して異年齢の子どもとふれ合う機会を設けました。
- ◆ 小学校1年生に図書館利用カードを配布するとともに「読書通帳」を併せて配布し、図書館の利用促進に努めました。また、児童書等の充実を図り、貸出利用者数及び貸出冊数の増加に努めました。
- ◆ 学校図書館では、学校図書館推薦図書リストの作成や、公立図書館からの団体貸出を利用するなど、調べ学習等の授業での活用を推進しました。
- ◆ 小中学校では、読書クイズや企画展等の読書イベントを開催し、児童生徒の読書への興味関心を高めるとともに、企画コーナーの設置や展示など、各校が工夫して図書館利用の増加に取り組み、児童生徒一人あたりの年間平均貸出冊数が増加しました。
- ◆ 学校図書委員会では図書館だよりを作成し、子どもたち同士でおすすめ本を紹介したり、図書委員による読み聞かせやブックトークなどを企画・実施したりしました。また、読書感想文・感想画コンクールへの参加を呼びかけるなどして、主体的に本と親しむ読書活動を推進しました。



※平成29年度学校図書館運営に関する調査より

2 子ども読書の現状

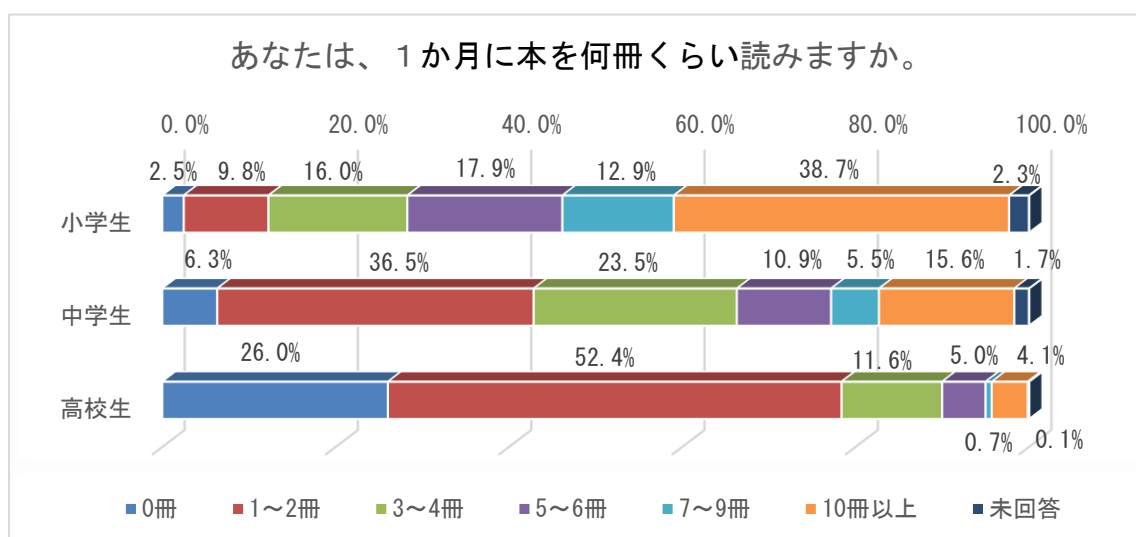
平成30年度に前橋市の児童生徒（市立小・中・高校）、保護者（幼稚園・保育所等、小・中学校）、施設（幼稚園・保育所等、市立小・中・高校）を対象に実施した読書活動に関するアンケート調査によると、小学生の89.1%、中学生の80.7%、高校生の75.2%が、読書は「好き」または「どちらかという好き」と回答しています。

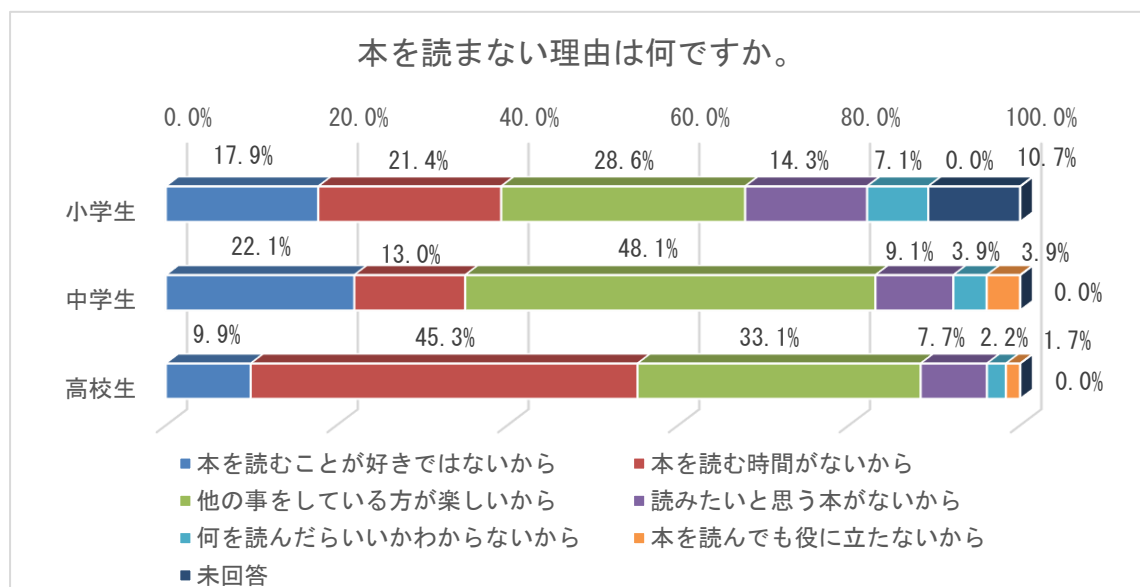


また、1か月に本を1冊以上読む割合は、小学生95.3%、中学生92.0%、高校生73.8%となっており、このうち1か月間に読む冊数の割合が最も高いのは、小学生では10冊以上38.7%、中学生では1～2冊36.5%、高校生では1～2冊52.4%です。

一方、1か月間に1冊も本を読まなかった児童生徒（不読者）の割合は、小学生は2.5%、中学生は6.3%、高校生は26.0%で、成長に伴い読書冊数が減るとともに不読者の割合も高くなっています。

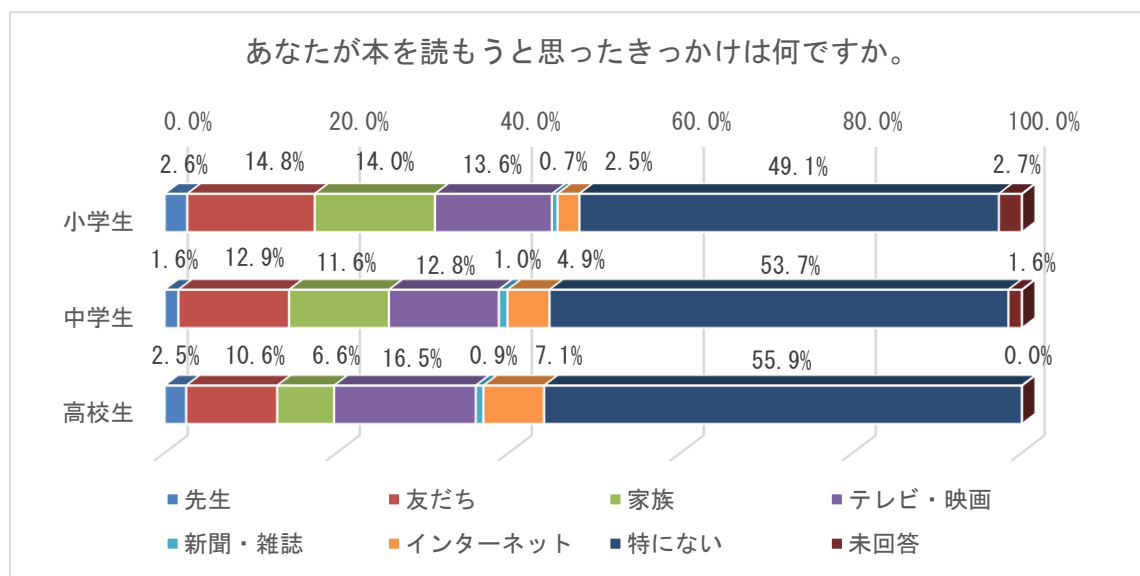
本を読まない理由で最も多かったのは、小・中学生は「他のことをしている方が楽しいから」、高校生は「本を読む時間がないから」でした。小・中・高校生ともに、読書以外のことに時間を使い、本を読む時間がなくなっている状況がうかがえます。





本を読もうと思ったきっかけは、約半数が「特にない」と回答しています。

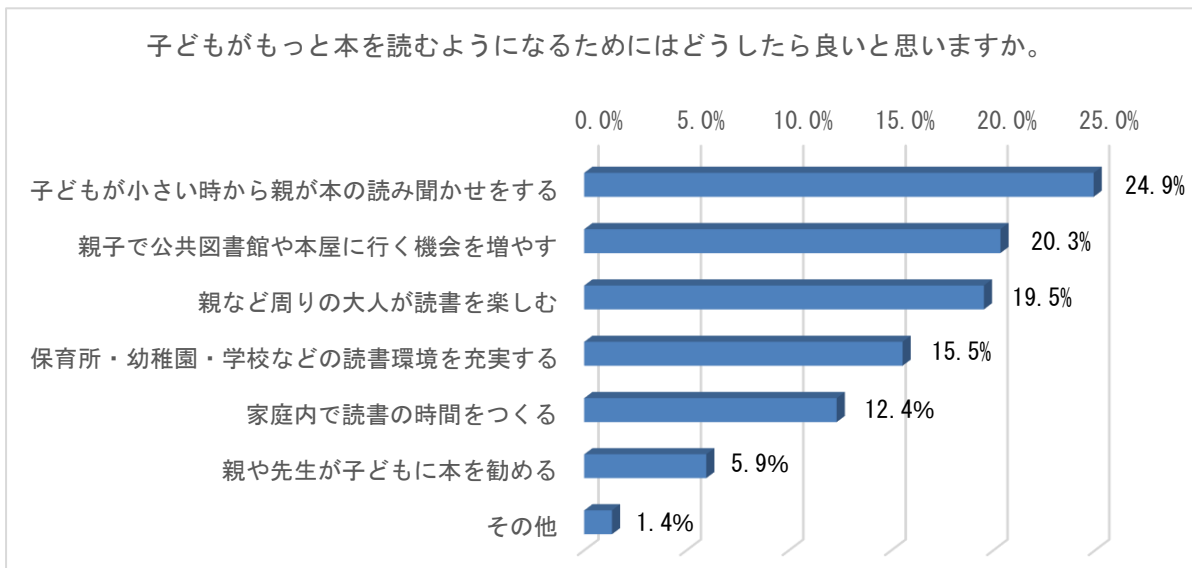
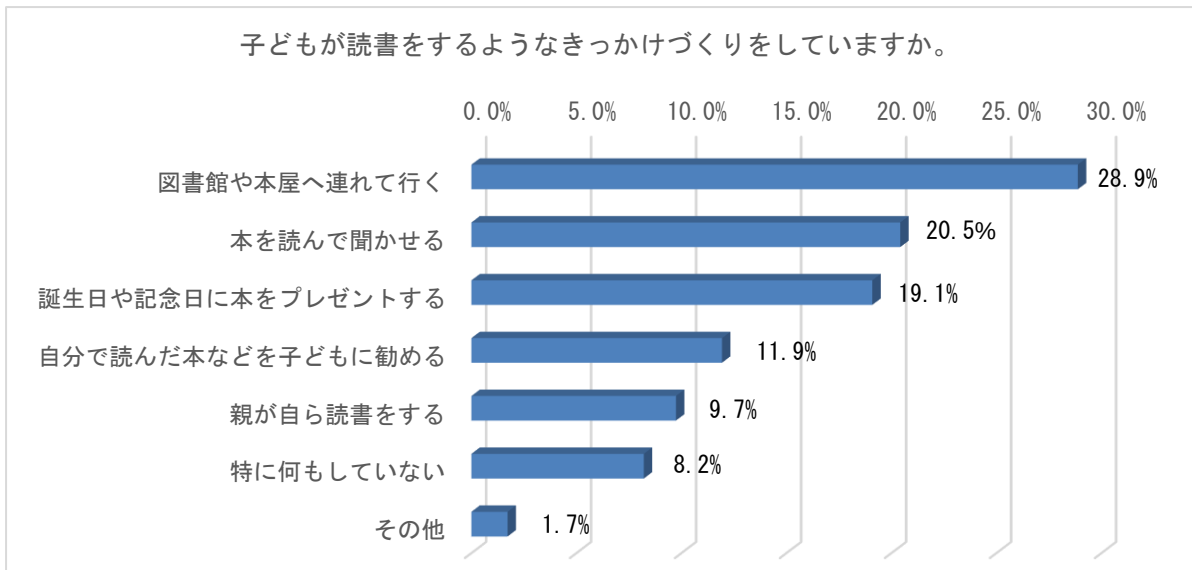
次いで、小・中学生では「友だち」の推薦、「家族」や「テレビ・映画」がきっかけとなっています。高校生では「テレビ・映画」、「友だち」と回答していることから、本を読むきっかけとして、友だちや家族の影響を受けていることがうかがえます。



子どもに読書への興味をもってもらうには、保護者によるきっかけづくりも大切です。

保護者に、子どもが読書をするようなきっかけづくりをしているかと質問したところ、最も多くの方が「図書館や本屋へ連れて行く」、次いで「本を読んで聞かせる」と回答しました。

また、子どもがもっと本を読むようになるためにはどうしたら良いかとの質問には、「子どもが小さい時から親が本の読み聞かせをする」と回答した人が最も多く、次いで「親子で公共図書館や本屋に行く機会を増やす」でした。



3 第三次計画実施期間中の状況変化

(1) 前橋市の取組

①教育におけるデジタル化の推進

学校では令和2（2020）年度に、児童生徒への学習用端末配付と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する国のGIGAスクール構想により、ICTを活用して子どもたちの学びを支える環境が整いました。

②コロナ禍の影響

GIGAスクール構想の推進と時を同じくして新型コロナウイルスの感染拡大に伴い学校や図書館が休校・休館を余儀なくされる事態となりました。市民ボランティアによる学校や公民館での読み聞かせは休止となり、こども図書館の令和2年度来館者数は48,782人と、令和元（2019）年度115,191人と比較して約58%減少するなど、子どもたちの読書環境に大きな影響を及ぼしました。

3年余の時を経てwithコロナに切り替わり、学校や地域でのおはなし会が再開されるとともに、前橋市立図書館では令和5(2023)年3月に電子書籍サービスを導入し、図書館に足を運ばなくても約32,000タイトルの書籍を借りたり閲覧できるようになりました。

(2)国・県の動向

①国の動向

令和5(2023)年3月に「第5次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画(計画期間:令和5年度～9年度の5年間)」を策定しました。

急激に変化する時代において必要とされる資質・能力を育む上で、読解力や想像力、思考力、表現力等を養う読書活動の推進は不可欠であり、全ての子どもたちが読書活動の恩恵を受けられるよう、社会全体で子どもの読書活動を推進するとの基本方針のもと、次の4点を念頭におき施策を進めています。

- 1 不読率の低減
- 2 多様な子どもたちの読書機会の確保
- 3 デジタル社会に対応した読書環境の整備
- 4 子どもの視点に立った読書活動の推進

②群馬県の動向

令和2(2020)年3月に策定した「群馬県読書活動推進計画(計画期間:令和2年度～6年度の5年間)」により各種施策を推進しています。

なお、群馬県の計画は各種法令等に基づく4つの計画を内包しており、県民全体を対象としています。

- 1 第4次群馬県子ども読書活動推進計画
- 2 視覚障害者等の読書環境の整備に関する法律(通称:読書バリアフリー法)に基づく県計画
- 3 群馬県民の読書活動の推進に関する条例を踏まえた計画
- 4 群馬県教育振興基本計画の個別基本計画

このうち、2の読書バリアフリー法に基づく計画は、令和4(2022)年3月の改定で追加されました。

群馬県では、生涯を通じて学ぶ・楽しむ・考える「読書」の推進を基本目標に、2つの基本方針を掲げています。

- 1 読書週間を形成するために、乳幼児期から家庭、学校、地域等が連携し、継続した支援を行う。
- 2 県民が生涯にわたり読書に親しむために読書環境を整備する。

なお、県の基本目標にある「読書」には、活字の本のみならず電子書籍等の多彩な媒体による読書が含まれています。

4 今後の課題

(1) 子どもの発達段階に応じた読書習慣の定着

中学生・高校生へと年齢が上がるにつれ読書離れの傾向があるため、子どもの発達段階に応じた読書習慣の定着に向けて更なる読書活動の推進が求められています。

子どもが1か月に1冊も読書をしない割合（不読率）の全国平均（平成29年度）は、小学生5.6%、中学生15.0%、高校生50.4%です。一方本市のアンケート結果では、小学生2.5%、中学生6.3%、高校生26.0%で全国平均よりもよい結果ですが、子どもたちが本や読書に興味関心が持てるよう、引き続き取組を推進する必要があります。

(2) 学校図書館のより一層の活用

新学習指導要領では、学校図書館は、子どもたちの成長に重要な役割を担っているとされています。各教科・領域での学習活動において学校図書館をより一層活用することにより、子どもたちにとって図書館がより身近な存在となることが期待されます。

(3) デジタル社会に対応した読書環境の整備

児童生徒への学習用タブレット端末の配付やスマートフォンの普及に伴い、インターネットを利用した調べものや電子書籍の利用など、子どもの生活環境や読書環境に大きな変化が生じています。

活字の本と電子書籍にはそれぞれメリット・デメリットがあります。本を読む目的や状況に応じて両者を適切に使い分ける力を身に付けることで読書の質を高め幅が広がるよう、子どもたちを支援していくことが求められています。

(4) 社会全体で読書活動の推進に取り組むための周知啓発

本市では、子どもが本と出会うきっかけづくりとして、読み聞かせやおはなし会などの様々なイベントに取り組んできましたが、子どもの読書習慣を形成、定着させるうえで保護者や地域の大人たちの存在は極めて重要です。

社会全体で子どもの読書活動が推進されるよう、子どものみならず、大人に向けても乳幼児期から読書の楽しさを体験することの大切さや読み聞かせの重要性を周知啓発していく必要があります。

(5) 関係機関等との連携

子どもの読書活動を効果的に推進していくためには、市民ボランティアをはじめ、学校等の教育機関、公民館等の社会教育施設や国・県等の公共団体が連携体制を築き各事業への相互支援や情報提供などを通じて、より一層の連携を推進する必要があります。

5 経年変化で見る子ども読書の現状（次期計画の策定に向けて）

読書は好きですか（当てはまる、どちらかと言えば当てはまる）

小学6年生		平成31年4月	令和4年4月
	前橋市	78.5%	77.6%
	全国（公立）	75.0%	73.1%

中学3年生		平成31年4月	令和4年4月
	前橋市	72.7%	71.9%
	全国（公立）	68.0%	68.2%

（全国学力・学習状況調査 文部科学省）

1日当たりの読書時間 30分以上（学校以外 月～金）

小学6年生		平成31年4月	令和4年4月
	前橋市	44.2%	36.9%
	全国（公立）	39.8%	36.4%

中学3年生		平成31年4月	令和4年4月
	前橋市	32.4%	28.2%
	全国（公立）	27.0%	27.3%

（全国学力・学習状況調査 文部科学省）

上記の表は第三次計画の策定時に設定した目標に関連する指標について、コロナ禍前の平成31年と世の中がWithコロナに移行し始めた令和4年の前橋市と全国の状況を示したものです。

「読書は好き」に「当てはまる」又は「やや当てはまる」を選択した子どもは、小学6年生、中学3年生ともに、コロナ禍の前後どちらにおいても全国よりも高い結果となっています。

また、「1日当たりの読書時間が30分以上」の子どもについても同様の傾向を示しており、コロナ禍の前後どちらにおいても前橋市の方が全国よりも高い結果となっています。

一方、経年変化を見ると、全国、前橋市ともにどちらの設問も直近データの方が低い傾向を示している点が共通しています。

昨今は、急速に変化する社会に順応できる資質や能力を育むことが大人にも子どもにも求められています。とりわけ子どもたちは、1日24時間の中で勉学や友人との交流、スポーツ、遊び、そして読書など日常生活での様々な経験を通して、自立した社会人として生きるために必要な力を蓄えていく過程にあることから、引き続き読書時間の確保に向けて注力していきます。

次期計画を策定する際は、子どもが主体的に読書活動を行うことが、その子自身の可能性を引き出すことにつながるよう、図書館や学校、地域において時代に合わせた多様な読書機会の提供に努めるなど、子どもの主体性を引き出すことに着目して読書の質を高めていく取組がより一層求められています。

第3章 第三次計画の基本方針

1 理念

読書は、知識を深めるだけでなく、語彙力や言語能力、表現力を高める効果があり、また、集中力、想像力を養い、感受性を豊かにし、相手の気持ちを理解しようとするコミュニケーション能力を高めてくれます。人生をより深く生きる力を身につけていくうえで欠くことのできないもので、読書は子どもの将来を左右する基礎を築くものの一つであるとも言われています。子どもが読書の楽しさを知り、自主的な読書活動を行うことができるよう積極的に環境を整えていく必要があります。

前橋市子ども読書活動推進計画の第一次計画では、子どもたちが「本との出会いを広げ心豊かに」成長していくことを願い、第二次計画では、子どもが主体的に本に親しむことを目標に、テーマを「伝えよう 本のすばらしさを」として本と子どもたちをつなげる「人」の役割を重視して取り組んでまいりました。

第三次計画では、これまで読書に親しむことができなかった子どもたちにも読書活動が広がるよう「つなげよう 読書のわ みんなにとどけ 本のちから」をテーマとして、子どもの読書活動の更なる推進に取り組めます。

2 目的

前橋市では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、平成21年3月に第一次となる「前橋市子ども読書活動推進計画」を、さらに、その成果等を整理し平成26年11月には第二次計画を策定し、子どもの読書活動推進に取り組んでまいりました。この度、平成30年度をもって第二次計画の計画期間が満了することから、第二次計画の取組・成果と課題及び国の動きを反映させた第三次計画を策定し、本を読む子どもをさらに広げるなど更なる子どもの読書活動の推進を図ります。

3 目標

子どもたちに読書の楽しさや大切さを知ってもらえるよう、また、自ら本に手を伸ばす子どもが育つよう、家庭・地域・学校・図書館・関係機関などが連携して、「読書が好き」な子どもをより広く育成し、1か月に1冊も本を読まない子どもの割合を減らします。

4 方針

本計画は、次の基本方針に基づき推進していきます。

(1) 家庭・地域における子ども読書活動の推進

子どもたちが日々の暮らしの中で本と出会える環境づくりや、読書の喜びや楽しみを実感できる読み聞かせなど、親子で取り組む読書活動を推進し、読書をする子どもの裾野を広げてまいります。また、これまで進めてきた本と子どもたちをつなげていく「人」とのかかわりを大切に育み、地域の活動と一体となった読書活動を推進します。さらに、これまで本に関心の少なかった家庭や保護者に子どもの読書活動の意義と必要性についての理解を求めるため、周知啓発に努めます。

(2) 学校等における子ども読書活動の推進

幼稚園・保育所等において、子どもたちとその保護者を対象とし、読み聞かせの大切さを伝えて行く取組を広めていきます。

新学習指導要領に基づき、子どもたちの主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすため、学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図ります。また、読書の習慣を身に付けられるよう、子どもの成長に応じた読書の方法や本を読むことの楽しさを学校図書館から発信します。

(3) 図書館における子ども読書活動の推進

子ども読書活動の拠点として、子どもの発達の状況に応じた蔵書の充実を図るとともに、これまで図書館を利用しなかった人たちに足を運んでもらえるよう、本との出会いや読書の楽しみを知る機会を提供します。さらに、学校や幼稚園・保育所等、ボランティア団体などが利用しやすい環境を整え、団体等による読書活動を支援します。

(4) 関係機関との連携による子ども読書活動の推進

学校、幼稚園・保育所等の教育機関、公民館等の社会教育施設及び国、県等の関係公共団体並びに民間団体等と図書館が相互に連携・協力を図ることで、子どもの読書活動を効果的に推進します。

5 計画の期間

令和元（2019）年度から令和6（2024）年度までの6年間とします。

（当初の計画期間は令和5年度までの5年間）

6 計画の対象

概ね18歳以下の子どもとします。

第4章 子ども読書活動推進のための方策

1 家庭・地域における子ども読書活動の推進

(1) 家庭

子どもの読書習慣は、日常の家庭生活を通して成長とともに形成されていきます。子どもが読書習慣を身に付けるためには、子どもにとって最も身近な存在である保護者が、子どもの読書に理解と関心を持ち、子どもが本に親しめる環境づくりに積極的に関わることが大切です。そのためには、保護者も読書をするのが重要です。

図書館等では、家庭における読書活動を推進するため、保護者を対象とした読み聞かせ講座の開催や、子どもが好きな本のリストや新刊案内などの情報を発信し、保護者が定期的に読書の時間を設けたり、家族で読書の習慣づけを行ったり、親子で楽しく子どもの読書に関われるよう取組を進めています。

事業	事業内容	区分	担当部署
ハローベビークラスで絵本等の紹介	◆ ブックスタートでお渡しする絵本の紹介、胎教におすすめのCDリストやこども図書館の紹介をします。	継続	こども支援課
ブックスタート事業の推進	◆ 赤ちゃんに絵本を1冊プレゼントするブックスタート事業を推進していきます。母子手帳交付時にブックスタート事業の紹介を行い、窓口にチラシ等を設置し周知します。関係機関や保健推進員と連携し、家庭を訪問して引換券の配布を行います。 ◆ こども図書館ではブックスタート絵本の引換時にボランティアによる読み聞かせ（フォローアップ事業）を行っています。令和4年度より、地区公民館（分館）2か所でおはなし会を開始しました。引き続き、地区公民館（分館）や地域ボランティアの協力を得て、対象地区及び開催数の増加を図ります。 ◆ ブックスタート絵本の引換を令和5年4月より、1歳から1歳6ヶ月を迎える乳幼児とし、引換期間を6ヶ月延長しました。 ◆ 転入などによる未引換者に対して、本人・保護者宛に通知し、絵本引換率の向上に努めます。	拡充	こども支援課 図書館
親子を対象とした絵本の紹介	◆ ひよこクラス（生後2～3か月児とその親）でブックスタート事業を紹介し引き換えできる絵本の紹介を行います。	継続	こども支援課

親子を対象とした 絵本の読み聞かせ	◆すこやか健康教室（地域からの要望）では、講座内容により絵本等で読み聞かせを実施します。 ◆ おくちげんき教室（各園所）では、歯科衛生士が紙芝居等で読み聞かせを実施します。 ◆ こども発達支援センターの早期療育支援事業（遊びの教室）では、プログラムにより絵本の読み聞かせをそれぞれ実施します。	継続	こども支援課
----------------------	--	----	--------



親子でブックスタート



絵本の読み聞かせ

（２）地域

各地区の公民館や児童文化センター、児童館など地域の子どもの対象とした施設や歴史資料館等では、子どもの読書活動を推進するために様々な活動を行っています。地域で活動するボランティアグループ等と協力し、地域での子育てに対する意識を高めるような取組を進める中で、子どもと保護者が読書に親しむ機会を提供します。

事業	事業内容	区分	担当部署
子育て中の親を対象とした読み聞かせ講座	◆ 公民館主催の子育て、親子支援事業において、乳幼児を持つ親に対し、子育てに活かすことができる絵本の選び方や読み聞かせの大切さ、素晴らしさを伝える講座を開催します。また、発達の段階に応じて読書を通じた親子のふれあいをテーマとした内容を取り上げます。	継続	生涯学習課
子育て支援者を対象とした読み聞かせ講座	◆ 地域で子育てをするという意識の向上やボランティア活動の支援を目的に、公民館主催の子育て、親子支援事業において、読み聞かせの方法等を学ぶ講座を開催します。	継続	生涯学習課
文化祭等のイベントでの読書活動啓発	◆ 各種イベントで絵本の読み聞かせ等を行うことで、親子だけでなく地域の方に対しても子どもの読書活動に理解と関心を持つことを促します。	継続	生涯学習課

ボランティア団体との連携と活動支援	◆ボランティアの会の読み聞かせの取り組みなどを積極的に活用し、活躍の場を提供することで、活動の支援を行います。	継続	教育支援課 (児童文化センター)
	・ボランティア団体の読書関連事業を積極的に活用することにより、活躍の場を提供することで、活動の支援を行います。	継続	生涯学習課 こども施設課
子ども読書推進のための地域団体等への周知啓発	◆地域団体や自主学習グループ等に対し、研修会や勉強会に読み聞かせ講座を取り入れるよう働きかけ、読み聞かせや子どもの読書活動の大切さを学び、知ってもらうことで、読み聞かせ等が子育て中の親への支援や孫育ての一助となることを理解し、地域での子育てに対する意識を高めます。	継続	生涯学習課
あらゆる機会に読み聞かせを実施	◆イベント開催時などでボランティアの会の読み聞かせや紙芝居などの活動支援を行い、絵本や本にふれあう機会を創出します。 ◆新刊や分類、年齢に応じた絵本等の紹介などを行い、来館者親子への読書推進を図ります。	継続	教育支援課 (児童文化センター)
学生ボランティア・職場体験の受入れ	◆学生ボランティア体験等において、異年齢の子どもに絵本の読み聞かせや紙芝居などを行います。	継続	こども施設課
おすすめ本の紹介・展示コーナーの設置	・科学・文化芸術活動や環境保全活動などの施設の事業と関連した本を充実させるとともに、展示を工夫するなど各種活動との相互作用が図れるようにします。	継続	教育支援課 (児童文化センター)
	・年齢や発達に応じたおすすめ図書リストの作成、ポップカードなどによる図書の紹介、子育て支援関連図書の紹介などにより、本を選ぶ際の手助けをします。	継続	こども施設課 教育支援課 (児童文化センター)



生涯学習フェスティバル おはなし会



児童文化センターにて読み聞かせ

2 学校等における子ども読書活動の推進

(1) 幼稚園・保育所（園）・認定こども園

幼稚園・保育所などに通う子どもたちは、幼少期という心も身体も著しく成長する時期を過ごしています。多くの幼稚園・保育所等では、この時期に絵本や物語に出会い読書の楽しさを知ることができるよう、子どもたちに絵本や物語に親しむ機会を提供しています。

絵本やおはなしの読み聞かせなどの取組をより充実させ一人一人の幼児が興味をもてるようにするとともに、様々な保護者に対して読み聞かせの楽しさや大切さを伝えていく取組を広めていきます。

事業	事業内容	区分	担当部署
あらゆる機会に読み聞かせを実施	◆ 毎日の保育の中で読み聞かせを実施するとともに、生活の中で保護者・保育者などとのふれあいを大切にし、幼い時期から絵本に出会えるように園で本の貸し出し等を行います。 ◆ 誕生会や集会などで大型絵本や紙芝居、仕掛け絵本などの読み聞かせを行います。	継続	教育支援課 (幼児教育センター) こども施設課
幼稚園教諭、保育士対象の研修会開催	◆ 研修会に参加し、乳幼児が絵本、劇遊びなどに親しむ環境づくりについて学びます。資質向上を図り、絵本の楽しさをよりよく伝えられるようにしていきます。	継続	こども施設課
親子読書	◆ 月間絵本を個人又は園用に定期購読し、園又は家庭で活用します。	継続	教育支援課 (幼児教育センター)
絵本の充実	◆ 市立図書館の絵本セット団体貸出を利用する他、PTA有価物回収の収益などにより学級用の月間絵本を購入し、絵本の充実を図ります。	継続	教育支援課 (幼児教育センター)
	◆ 絵本セット団体貸出を利用することにより絵本の充実を図ります。	継続	こども施設課
子どもと本をつなぐ支援とネットワークの充実	◆ 保護者向けの読み聞かせ講演会を実施し、併せて読み聞かせボランティアを募集します。 ◆ ボランティアなどにより、降園前や集会などで読み聞かせを実施します。	継続	教育支援課 (幼児教育センター)
ボランティア団体との連携、読み聞かせ推進	◆ ボランティア団体の読み聞かせ事業を活用し、絵本に触れることで、保育の充実を図ります。	継続	こども施設課

こども図書館の活用	こども図書館を訪問し、興味のある絵本の貸出を利用します。また、関心のある事柄を幼児なりに調べる経験を行います。	継続	こども施設課
-----------	---	----	--------



保育士研修会



こども図書館の活用

(2) 小学校・中学校

小学校・中学校においては、それぞれの発達の状況に応じて、児童生徒が自ら読書に親しむ読書習慣を身に付けさせることが非常に重要です。そのため、全校一斉読書や読み聞かせなどの取組を引き続き推進していきます。また、児童生徒に読書の楽しさを伝えたり、選書の相談にのったりできるような学校司書等の指導者を配置します。児童生徒が主体的・意欲的に読書活動や学習活動に取り組める環境づくりをさらに進めていきます。

事業	事業内容	区分	担当部署
あらゆる機会に読み聞かせを実施	- 教科指導の一環として、担任及び教科担当が読み聞かせを行います。 - 図書委員会の児童生徒が、学校図書館、昼の放送にて、読み聞かせを行います。 - 地域の人や保護者ボランティアを募り、朝読書の時間などにおいて学校で読み聞かせ会を行います。	継続	学校教育課
児童生徒が本を手に取りたくなるような環境の整備	- 年齢や発達に応じたおすすめ図書リストや教職員が選ぶおすすめ図書リストを作成し、配布します。 - 図書委員会活動等で、おすすめの本を紹介します。 - 授業に関連した図書資料（図鑑、同じ著者の作品、シリーズもの等）を教室に展示します。 - 季節や行事に応じた特設展示コーナーや学習内容、社会で話題になっていることに関連した展示コーナーを設置します。	継続	学校教育課
授業における読書活動の推進	本を読んだ感想を文章に書き、本を読み、思ったことや考えたことを友達と話し合い伝え合う活動を取り入れた学習を行います。	継続	学校教育課

授業における読書活動の推進	◆ 本の紹介箱や帯、ポップ、ポスター等を作り、おすすめの本を紹介する等、本に親しむ機会を増やすような活動を取り入れた学習を行います。	継続	学校教育課
児童生徒が主体的に本と親しむ読書活動	◆ 図書委員会で、本を使ったクイズ等の企画運営や、図書委員による^{*1}ブックトークやレファレンスサービスなど、図書委員会の活動を充実させます。 ◆ 読書感想文及び読書感想画コンクール等への参加を呼びかけ、多読賞を表彰することで、児童生徒の読書への関心と意欲を高めます。	継続	学校教育課
校内における学校図書館の活用の推進	◆ 授業で積極的に学校図書館を活用し、さらに調べ学習セット等を作成し、各学年・学級のニーズに応えます。 ◆ 年度当初に、各学年・学級で学校図書館オリエンテーションを実施し、図書の分類や探し方の学習を行います。 ◆ 図書館業務従事臨時職員が児童生徒とやりとりしながら、本を選ぶ手助けをします。	継続	学校教育課
学校図書館の物的・人的整備	◆ 市内の学校における貸し出し人気作品のリストを毎年更新し、市内の学校で共有します。また、貸し出し人気作品リストを活用し、各教科等のニーズを集約することなどにより、蔵書の充実を図ります。 ◆ 市立・県立図書館の学校支援事業を活用します。 ◆ 学校司書として、学校図書館業務従事臨時職員を配置します。 ◆ 読書活動や教科指導における学校図書館の活用等の教職員研修を開催し、司書教諭や学校司書のスキルアップ及び学校間の連携強化を図ります。	継続	学校教育課 学務管理課
保護者に親子読書の良さ・楽しさを伝える啓発	◆ 学校便りや図書館便り等の広報を家庭に配布して読書の啓発を行い、さらに読書月間や読書週間などの取組や、おすすめの本等の情報提供をします。	継続	学校教育課

*1 ブックトーク：あるテーマに沿って複数の本を紹介し、読書への興味を引き出す手法



朝読書の時間



学校フェスタ おはなし会

(3) 高等学校

高校生は知的興味に応じ、一層幅広く多様な読書ができるようになりますが、スマートフォンの普及やコミュニケーションツールの多様化等により子どもを取り巻く情報環境が大きな変化を見せており、インターネットを利用した調べものや電子書籍の利用が増える一方で、中学生から高校生へと進むにつれ読書離れの傾向が現れるなど子どもの読書環境は大きく変化しています。これまでの継続的な読書活動に加え、様々なメディアや情報を活用し生徒が多忙の中でも読書に関心を持てるような事業の充実を図ります。

事業	事業内容	区分	担当部署
生徒が主体的に本に親しむ読書活動	◆ 図書委員会により図書室だよりを毎月発行し、生徒や教員のおすすめ本や新着本の紹介などを行います。 ◆ 年1回発行の図書館報には、生徒や教員による寄稿や生徒が作成したPOPなどを掲載し、生徒の読書への関心が高められるよう努めます。 ◆ 図書委員会交流会に参加し、市内の県立高校等との交流を深め、^{*2}ビブリオバトルなどの読書活動を推進します。	継続	学校教育課
読書情報の提供	◆ 新着本コーナーや話題の本などの特設コーナーを設置し、生徒が興味関心を持ち、新たな本と出会えるような機会を提供します。	継続	学校教育課
授業における読書活動の推進	◆ 授業の中で、本を読んだ感想や自分の変化を表現し、友達に伝えるなどの本に親しむ活動を行います。 ◆ 学校図書館を活用した学習指導の充実を図ります。	継続	学校教育課

*2 ビブリオバトル：読んで面白かった本を紹介しあい、一番読みたくなった本を多数決で決める書評合戦



学校図書館



新着本コーナー

(4) 特別支援学校

特別支援学校において、特別な支援を必要とする児童生徒が豊かな読書活動を体験できるよう、一人一人のニーズに応じた図書館資料の整備を図るとともに、関係機関と連携し、児童生徒が主体的に本に親しめるような読書活動を推進します。

事業	事業内容	区分	担当部署
あらゆる機会に読み聞かせを実施	◆ 朝の会等の学級活動や教科指導の一環として、教員が随時読み聞かせを行います。 ◆ 読み聞かせボランティアなどによるおはなし会の充実を図り、児童生徒が読書の楽しさを味わえるよう努めていきます。	継続	教育支援課 (特別支援教育室)
児童生徒が本を手に取りたくなるような環境の整備	◆ プレイルームに隣接した図書コーナーを授業で必要に応じて利用したり、児童生徒が休み時間に本を借りたりする場と機会を提供します。 ◆ 児童生徒の興味関心に合わせて、教室内に本を用意して、児童生徒自ら本を手にとって読めるようにします。 ◆ 市立図書館の団体貸出等の学校支援事業を活用し、図書の充実を図ります。	継続	教育支援課 (特別支援教育室)
児童生徒と本をつなぐ支援の充実	◆ 保護者を対象とした読み聞かせ講座等を開催し、読書の楽しさや大切さを伝える機会とします。 ◆ 教職員研修会を開催し、読み聞かせの方法など児童生徒が本に親しむ環境づくり等について学び、資質の向上に努めます。	継続	教育支援課 (特別支援教育室)



図書コーナー



ボランティアによるおはなし会

3 図書館における子ども読書活動の推進

図書館は、様々な分野の本を豊富に備えており、子どもが読みたい本を選び、読書の楽しさを知ることができる場所となっています。読書の楽しさを伝えるためのおはなし会への参加ができること、必要な情報を調べること、知識を得ることのできる場所でもあります。また、保護者が子どもに読ませたい本を選択したり、子どもの読書について相談したりすることができる場所です。

そのため、今後も子どもの発達の状況に応じた蔵書の充実を図ります。また、多彩なイベント等を開催し、利用者のニーズに応じた特色あるサービスを提供するとともに、読書離れの傾向にある中学生・高校生等に向けた支援を行います。

さらに、学校、幼稚園、保育所、ボランティア団体等の関係機関との連携を密にし、子どもの読書活動を推進します。

事業	事業内容	区分	担当部署
おはなし会や各種イベントの開催	◆ おはなし会をはじめとした本や図書館に親しむイベントを開催します。 ◆ 各図書館で定期的に行っているおはなし会のほか、「子ども読書の日」や「読書週間」を中心に公共機関や民間団体等と協働し、創意工夫のあるイベントなどを開催します。	継続	図書館
読書情報の提供	◆ 中学校1年生にブックリストを配付し、子どもの発達の状況に応じた読書案内を行います。 - また、推薦図書などのおすすめリストや読み聞かせボランティアのおすすめ本などを作成し、ホームページや図書館だより等で紹介します。 ◆ 話題の本、季節やイベント等にあわせた展示を行い、子どもたちが新たな本と出会えるような機会を提供します。 ◆ 新刊本、作家別の絵本や芥川賞・直木賞などの各種コーナーを設置し、来館者の興味・関心を高めるような工夫をします。	継続	図書館
学生ボランティア・職場体験の受入れ	◆ 図書館の仕事を体験し、より本や図書館に親しめるよう、図書館キッズ、サマーフレンズ、こども図書館員体験事業等を実施します。 ◆ 書架整理及び貸出業務のほか、読み聞かせボランティアが行うおはなし会に参加し、本にふれあうことのすばらしさを体験します。	継続	図書館

障害のある子どもへのサービスや多文化共生への取組	◆ 子ども向け点字図書や録音資料の収集など読書に親しめるようなサービスの充実に努めます。 ◆ 日本語を母国語としない子どもが読書を楽しむことができ、かつ、日本の子どもが多文化にふれる機会が得られるよう、外国語の絵本や資料を活用したおはなし会を開催します。 ◆ 子どもを対象にした電子書籍の収集に努めます。 ◆ 特別支援教育等の団体貸出は、電子申請による受付とし、来館不要です。子どもの主体性を尊重した選書方法を導入し、読書機会の拡大に努めます。	拡充	図書館
読書環境の整備・充実	◆ 児童書をはじめとした多様な図書資料の充実に図り、読書離れが懸念される中学生・高校生にとって魅力ある図書館づくりに努めます。 ◆ 小学校1年生へ図書館利用カードを配布するとともに「読書通帳」を配布し図書館の利用促進に努めます。 ◆ 令和5年3月より開始した電子書籍サービスを活用し、利用者の読書機会の拡大、選択肢の提供に努めます。	拡充	図書館
子どもと本をつなぐ支援とネットワークの充実	◆ 読み聞かせボランティア養成講座等を開催し、子どもたちに読書の楽しさや大切さを伝えていくうえで重要な役割を担っているボランティアを育成・支援します。 ◆ 読み聞かせボランティアや専門職員を必要とする学校や幼稚園・保育所（園）等への支援を行います。 ◆ ボランティア登録制度を導入し、多様なボランティア活動を行うための機会や場所を提供します。	継続	図書館
子どもが主役となる事業の実施	◆ 子どもたちがやりたいことを自ら企画し実施できるような機会を設け、子ども同士で行う読書活動等を支援します。 ◆ 他校の生徒たちとの交流や、地域活動に参加できる活動の場として、同年代や異年齢の子どもたちへ読書の推進のきっかけづくりを仕掛ける機会を提供します。	継続	図書館
地域におけるブックスタート事業	◆ 分館（公民館）において、子どもと保護者が一緒に楽しく本に親しむ場所を提供します。 ◆ 地域で活躍している読み聞かせボランティアの協力を得て、ブックスタートおはなし会を開催し、赤ちゃん親子に絵本の楽しみ方を伝えます。	拡充	図書館
学校図書館への支援	◆ 学校図書館における図書の選定や特設展示のテーマ設定等について連携・協力し、子どもたちに質の高い読書活動の機会を提供できるよう、協力体制の充実に努めます。	継続	図書館

4 関係機関との連携による子ども読書活動の推進

学校、幼稚園・保育所等における子どもの読書活動をさらに支援するため、関係機関との一層の連携に努めます。また、新たに民間企業・団体等との連携により、社会全体で子どもの読書活動の推進に取り組めるようネットワークの充実を図ります。

事業	事業内容	区分	担当部署
学校や幼稚園・保育所（園）等との連携	◆ 市内の希望する幼稚園、保育所（園）、認定こども園への絵本セット団体貸出の充実を図ります。 ◆ 小学校・中学校等へ団体貸出を実施し、読書活動や調べ学習への支援を行います。	継続	図書館
ボランティア団体等との連携	◆ 「前橋市読み聞かせグループ連絡協議会」をはじめとしたボランティア団体等と連携し、おはなし会や人形劇などの読書に親しむためのイベントを充実させるきつかけづくりを行います。 ◆ 図書館や地域で活動している各団体等がスキルアップのため実施している研修会やボランティアの育成を支援します。	継続	図書館 生涯学習課
公共機関・民間団体等との連携	◆ 民間団体等と連携し、イベントの開催や各種事業へのボランティアの派遣など、子どもの読書への関心を高める取組を推進していきます。 ◆ 団体貸出の活用や読書関連イベントへの図書資料の貸し出し等により、あらゆるところで読書に親しむ環境づくりに努めます。 ◆ 子どもの読書活動に関する情報の収集・提供に努め、国・県等の公共団体及びNPO等と連携しながら子どもの読書活動の意義等について、普及・啓発活動に取り組みます。	継続	図書館
発達段階に応じた読書活動の推進	◆ 前橋市読み聞かせグループ連絡協議会等のボランティア団体やNPO教育支援協会北関東等の教育活動を行う団体、さらに国立赤城青少年交流の家等の社会教育施設など複数の団体が連携し、複合的な協力体制を築きながら幼児期から継続した読書活動を推進するとともに、保護者や地域の大人への啓発も含めた読書活動を推進します。	継続	図書館

発達段階に応じた 読書活動の推進	【幼児期における読書活動】 疑似体験により本を身近に感じ、家庭での読み聞かせを推進する活動を実施します。 ・本と体験を結ぶ事業 ・保護者向けの読み聞かせ講座 【小学生等における読書活動】 幅広いジャンルの本にふれ、本を通して意見や情報を発信し、協働して達成することの大切さを気付かせるような活動を実施します。 ・「図書館レポーター」事業 ・体験活動と本を結ぶ事業 ・ブックトークなど様々な形で本を紹介する事業 ・本づくりを体験する事業 【中学生・高校生における読書活動】 読書をする機会の少ない中学生・高校生に、多様な視点から本への興味関心を啓発する活動や事業を通じてコミュニケーション力育成の機会とする活動に取り組みます。 ・作品や著者を知る事業 ・興味関心のある事をテーマとしたブックトーク	継続	図書館
-----------------------------	--	-----------	------------



前橋市読み聞かせグループ連絡協議会 事例発表



国立赤城青少年交流の家主催 体験の風

資 料 編

前橋市子ども読書活動に関するアンケート調査結果

1 調査目的

前橋市における子ども読書活動の実態を把握するとともに、読書活動推進の基礎資料とするため。

2 調査時期

平成30年7月～8月

3 調査概要

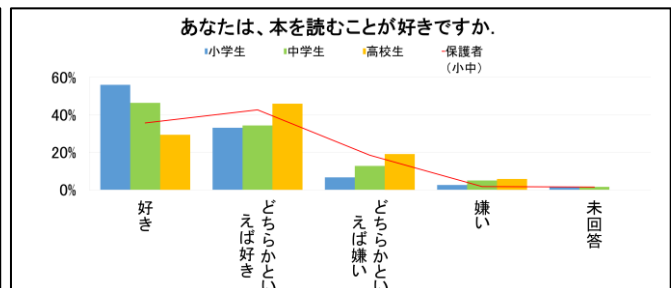
調査対象者	配付数	回答数	備考
小学校 4～6年生	1,162	1,135	市立小学校
中学校 1～3年生	1,293	1,232	市立中学校
高等学校1～3年生	713	699	市立高等学校
保護者	5,155	3,629	幼稚園・保育所（園）・認定こども園、市立小学校・中学校の保護者
施設	164	125	幼稚園・保育所（園）・認定こども園、小学校・中学校、市立高等学校、特別支援学校

4 調査結果

別紙のとおり

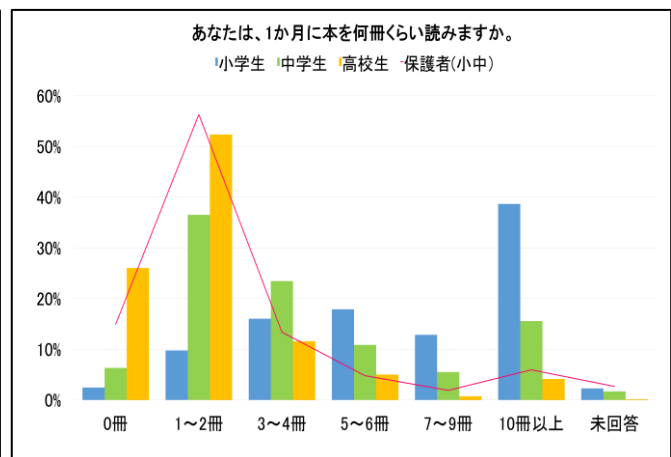
● あなたは、本を読むことが好きですか。

	小学生	中学生	高校生	保護者 (小中)
好き	56.0%	46.4%	29.3%	35.7%
どちらかといえば好き	33.1%	34.3%	45.9%	42.7%
どちらかといえば嫌い	6.6%	12.7%	19.0%	18.4%
嫌い	2.6%	5.0%	5.7%	1.7%
未回答	1.7%	1.5%	0.0%	1.5%



● あなたは、1か月に本を何冊くらい読みますか。

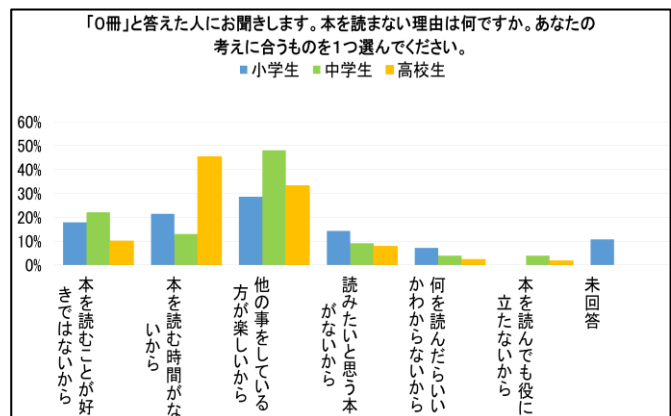
	小学生	中学生	高校生	保護者 (小中)
0冊	2.5%	6.3%	26.0%	14.9%
1～2冊	9.8%	36.5%	52.4%	56.3%
3～4冊	16.0%	23.5%	11.6%	13.4%
5～6冊	17.9%	10.9%	5.0%	4.8%
7～9冊	12.9%	5.5%	0.7%	1.9%
10冊以上	38.7%	15.6%	4.1%	6.0%
未回答	2.3%	1.7%	0.1%	2.7%



● 「0冊」と答えた人にお聞きします。本を読まない理由は何ですか。

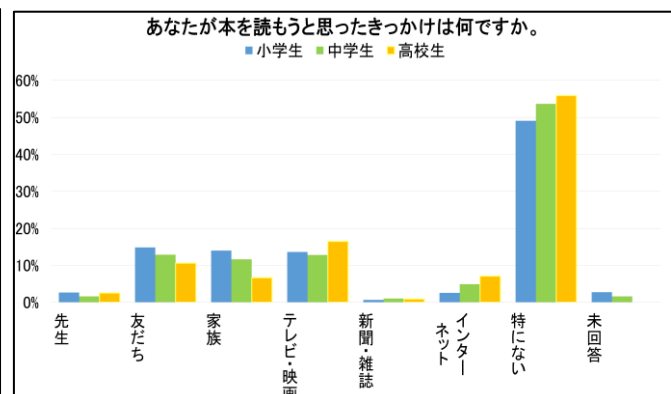
あなたの考えに合うものを1つ選んでください。

	小学生	中学生	高校生
本を読むことが好きではないから	17.9%	22.1%	9.9%
本を読む時間がないから	21.4%	13.0%	45.3%
他の事をしている方が楽しいから	28.6%	48.1%	33.1%
読みたいと思う本がないから	14.3%	9.1%	7.7%
何を读んだらいいかわからないから	7.1%	3.9%	2.2%
本を読んでも役に立たないから	0.0%	3.9%	1.7%
未回答	10.7%	0.0%	0.0%



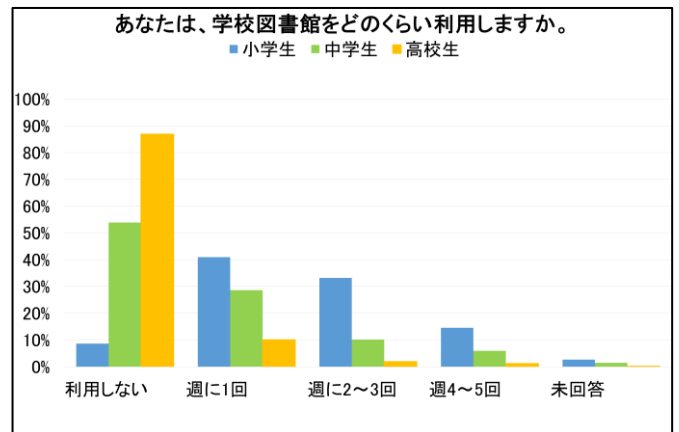
● あなたが本を読もうと思ったきっかけは何ですか。

	小学生	中学生	高校生
先生	2.6%	1.6%	2.5%
友だち	14.8%	12.9%	10.6%
家族	14.0%	11.6%	6.6%
テレビ・映画	13.6%	12.8%	16.5%
新聞・雑誌	0.7%	1.0%	0.9%
インターネット	2.5%	4.9%	7.1%
特にない	49.1%	53.7%	55.9%
未回答	2.7%	1.6%	0.0%



● あなたは、学校図書館をどのくらい利用しますか。

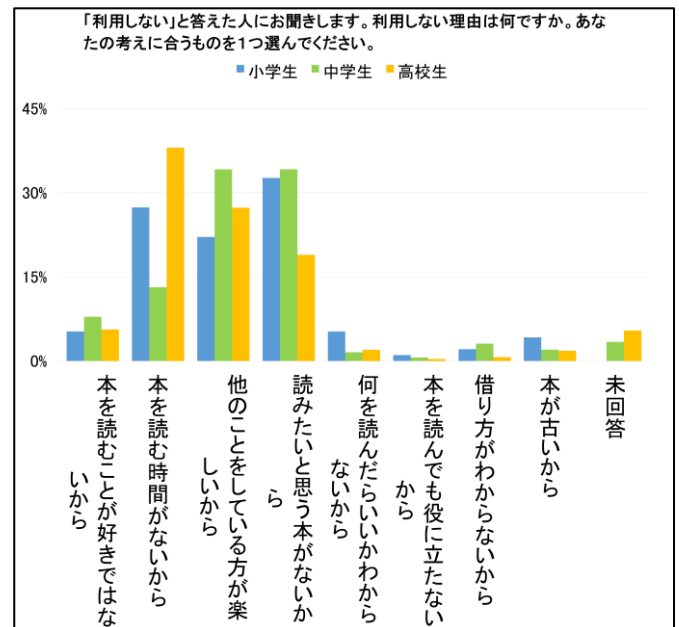
	小学生	中学生	高校生
利用しない	8.6%	53.9%	86.8%
週に1回	41.0%	28.6%	10.0%
週に2～3回	33.2%	10.2%	1.9%
週4～5回	14.6%	5.9%	1.1%
未回答	2.6%	1.5%	0.1%



● 「利用しない」と答えた人にお聞きします。利用しない理由は何ですか。

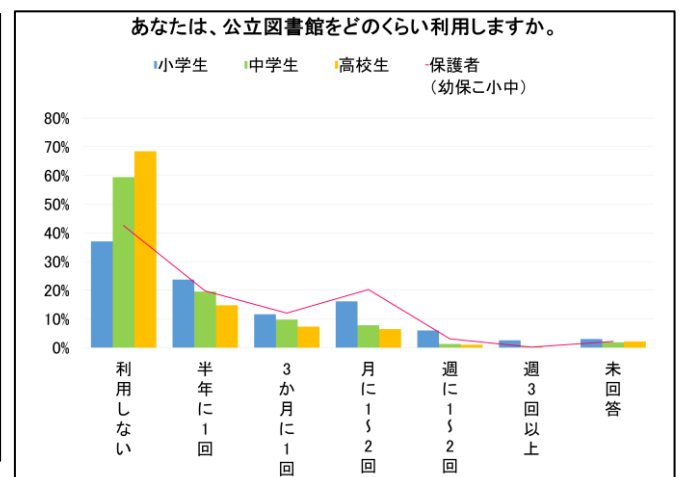
あなたの考えに合うものを1つ選んでください。

	小学生	中学生	高校生
本を読むことが好きではないから	5.3%	7.9%	5.6%
本を読む時間がないから	27.4%	13.1%	38.0%
他のことをしている方が楽しいから	22.1%	34.2%	27.3%
読みたいと思う本がないから	32.6%	34.2%	18.9%
何を讀んだらいいかわからないから	5.3%	1.5%	2.0%
本を読んでも役に立たないから	1.1%	0.6%	0.3%
借り方がわからないから	2.1%	3.1%	0.7%
本が古いから	4.2%	2.0%	1.8%
未回答	0.0%	3.4%	5.4%



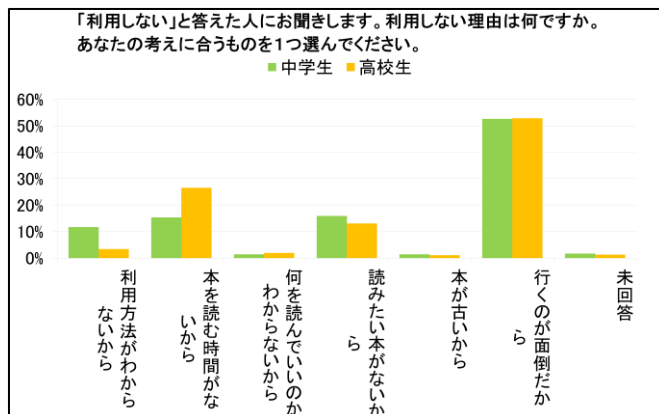
● あなたは、公立図書館をどのくらい利用しますか。

	小学生	中学生	高校生	保護者 (幼保こ小中)
利用しない	37.0%	59.4%	68.4%	42.5%
半年に1回	23.7%	19.5%	14.7%	19.8%
3か月に1回	11.6%	9.8%	7.3%	12.0%
月に1～2回	16.1%	7.8%	6.4%	20.3%
週に1～2回	6.0%	1.3%	1.0%	3.1%
週3回以上	2.6%	0.3%	0.0%	0.2%
未回答	3.0%	1.9%	2.1%	2.2%



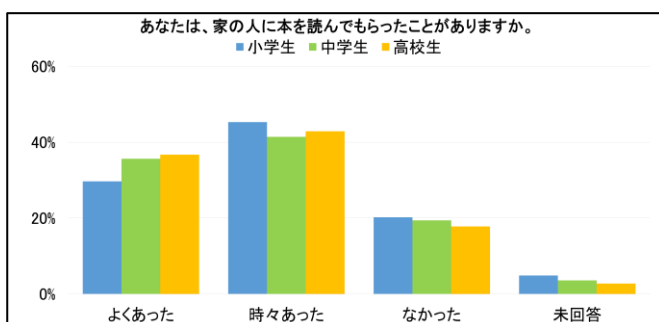
- 「利用しない」と答えた人にお聞きします。利用しない理由は何ですか。
あなたの考えに合うものを1つ選んでください。

	中学生	高校生
利用方法がわからないから	11.7%	3.4%
本を読む時間がないから	15.3%	26.5%
何を読んでいいのかわからないから	1.4%	1.9%
読みたい本がないから	15.9%	13.1%
本が古いから	1.4%	1.1%
行くのが面倒だから	52.6%	52.8%
未回答	1.7%	1.3%



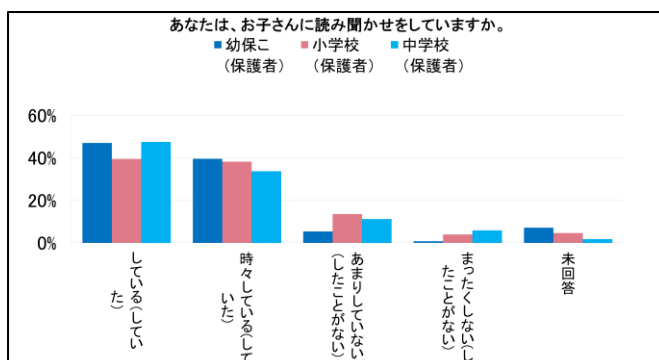
- あなたは、家の人に本を読んでもらったことがありますか。

	小学生	中学生	高校生
よくあった	29.7%	35.6%	36.7%
時々あった	45.3%	41.4%	42.8%
なかった	20.2%	19.4%	17.8%
未回答	4.9%	3.6%	2.7%



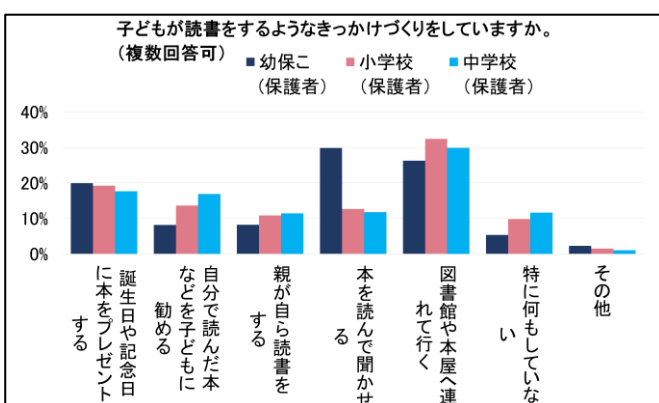
- あなたは、お子さんに読み聞かせをしていますか。

	幼保こ (保護者)	小学校 (保護者)	中学校 (保護者)
している(していた)	47.1%	39.5%	47.5%
時々している(していた)	39.6%	38.2%	33.7%
あまりしていない(したことがない)	5.4%	13.6%	11.2%
まったくしない(したことがない)	0.8%	4.0%	5.9%
未回答	7.2%	4.7%	1.7%



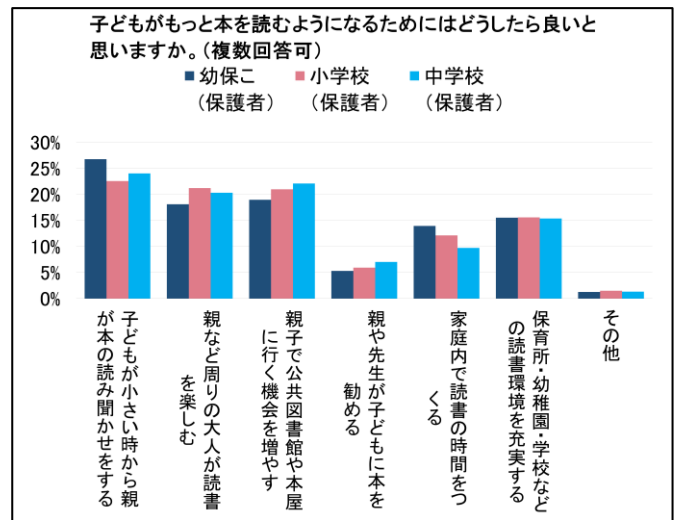
- 子どもが読書をするようなきっかけづくりをしていますか。(複数回答可)

	幼保こ (保護者)	小学校 (保護者)	中学校 (保護者)
誕生日や記念日に本をプレゼントする	19.9%	19.2%	17.6%
自分で読んだ本などを子どもに勧める	8.1%	13.6%	16.8%
親が自ら読書をする	8.2%	10.8%	11.4%
本を読んで聞かせる	29.8%	12.6%	11.7%
図書館や本屋へ連れて行く	26.3%	32.4%	29.8%
特に何もしていない	5.3%	9.8%	11.6%
その他	2.3%	1.5%	1.0%



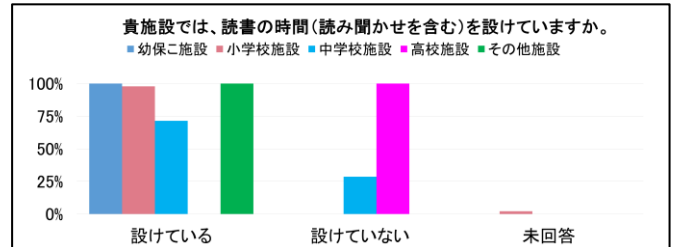
● 子どもがもっと本を読むようになるためにはどうしたら良いと思いますか。(複数回答可)

	幼保こ (保護者)	小学校 (保護者)	中学校 (保護者)
子どもが小さい時から親が本の読み聞かせをする	26.8%	22.6%	24.0%
親など周りの大人が読書を楽しむ	18.1%	21.2%	20.3%
親子で公共図書館や本屋に行く機会を増やす	19.0%	21.0%	22.1%
親や先生が子どもに本を勧める	5.3%	5.9%	7.0%
家庭内で読書の時間をつくる	14.0%	12.1%	9.7%
保育所・幼稚園・学校などの読書環境を充実する	15.5%	15.6%	15.4%
その他	1.3%	1.5%	1.3%



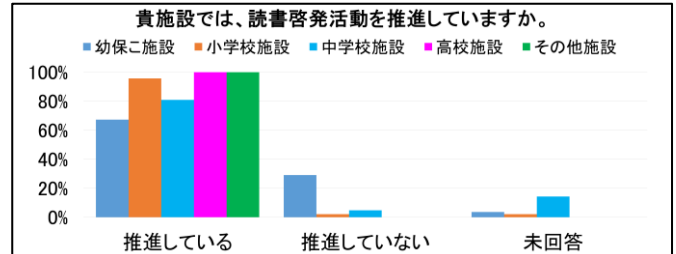
● 貴施設では、読書の時間(読み聞かせを含む)を設けていますか。

	幼保こ施設	小学校施設	中学校施設	高校施設	その他施設
設けている	100.0%	97.9%	71.4%	0.0%	100.0%
設けていない	0.0%	0.0%	28.6%	100.0%	0.0%
未回答	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%



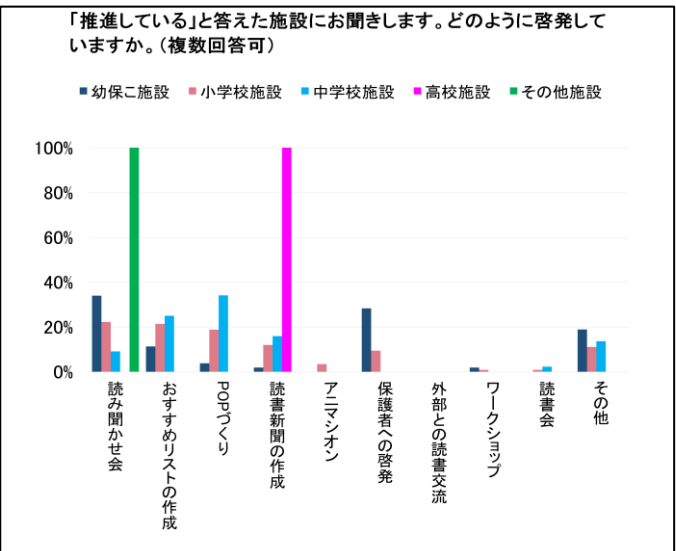
● 貴施設では、読書啓発活動を推進していますか。

	幼保こ施設	小学校施設	中学校施設	高校施設	その他施設
推進している	67.3%	95.7%	81.0%	100.0%	100.0%
推進していない	29.1%	2.1%	4.8%	0.0%	0.0%
未回答	3.6%	2.1%	14.3%	0.0%	0.0%



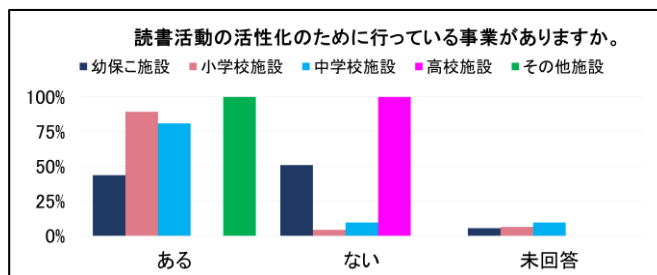
● 「推進している」と答えた施設にお聞きします。どのように啓発していますか。(複数回答可)

	幼保こ施設	小学校施設	中学校施設	高校施設	その他施設
読み聞かせ会	34.0%	22.2%	9.1%	0.0%	100.0%
おすすめリストの作成	11.3%	21.4%	25.0%	0.0%	0.0%
POPづくり	3.8%	18.8%	34.1%	0.0%	0.0%
読書新聞の作成	1.9%	12.0%	15.9%	100.0%	0.0%
アニメーション	0.0%	3.4%	0.0%	0.0%	0.0%
保護者への啓発	28.3%	9.4%	0.0%	0.0%	0.0%
外部との読書交流	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ワークショップ	1.9%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%
読書会	0.0%	0.9%	2.3%	0.0%	0.0%
その他	18.9%	11.1%	13.6%	0.0%	0.0%



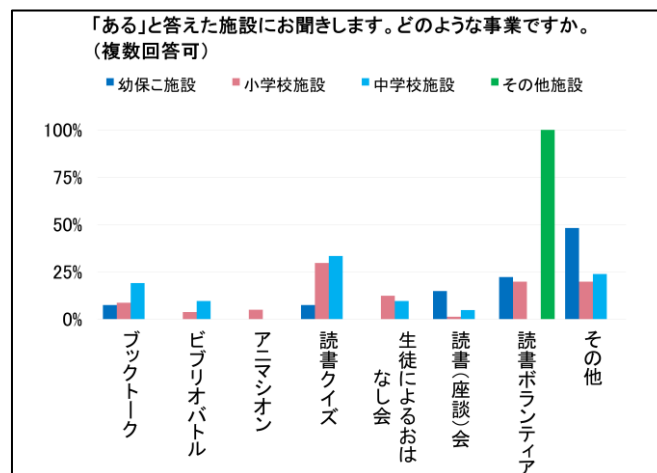
● 読書活動の活性化のためにやっている事業がありますか。

	幼保こ施設	小学校施設	中学校施設	高校施設	その他施設
ある	43.6%	89.4%	81.0%	0.0%	100.0%
ない	50.9%	4.3%	9.5%	100.0%	0.0%
未回答	5.5%	6.4%	9.5%	0.0%	0.0%



● 「ある」と答えた施設にお聞きします。どのような事業ですか。(複数回答可)

	幼保こ施設	小学校施設	中学校施設	その他施設
ブックトーク	7.4%	8.6%	19.0%	0.0%
ビブリオバトル	0.0%	3.7%	9.5%	0.0%
アニメーション	0.0%	4.9%	0.0%	0.0%
読書クイズ	7.4%	29.6%	33.3%	0.0%
生徒によるおはなし会	0.0%	12.3%	9.5%	0.0%
読書(座談)会	14.8%	1.2%	4.8%	0.0%
読書ボランティア	22.2%	19.8%	0.0%	100.0%
その他	48.1%	19.8%	23.8%	0.0%



前橋市子ども読書活動推進計画（第三次）

つなげよう 読書のわ
みんなにとどけ 本のちから

発 行	平成31年3月 令和5年9月 改訂 前橋市教育委員会事務局 図書館 https://www.city.maebashi.gunma.jp/library/index.html
編 集 連絡先	前橋市子ども読書活動推進計画策定委員会 前橋こども図書館 TEL 027-230-8833